

目次

現代物理学の自然像

I 現代物理学の自然像

- | | | |
|---|-----------------------|----|
| 1 | 自然の問題 | 二 |
| 2 | 技術 | 一〇 |
| 3 | 人間と自然の相互作用の一部としての自然科学 | 一四 |

II 原子物理学と因果法則

- | | | |
|---|-----------|----|
| 1 | 「因果」概念 | 二七 |
| 2 | 統計的合法則性 | 二八 |
| 3 | 量子論の統計的性格 | 三三 |

4	新原子物理学の歴史	三六
---	-----------	----

5	相対性理論と決定論の解消	三九
---	--------------	----

Ⅲ	古典的教育、自然科学および西欧の關係について	四三
---	------------------------	----

1	古典的教育擁護の伝統的基礎	四三
---	---------------	----

2	自然の数学的記述	四七
---	----------	----

3	原子と古典的教育	五〇
---	----------	----

4	自然科学と古典的教育	五四
---	------------	----

5	われわれの使命に対する信仰	五七
---	---------------	----

歴史的文献と解説

Ⅰ	近代自然科学の発端	六三
---	-----------	----

1	ヨハネス・ケプラー（宇宙学的秘密）	六四
---	-------------------	----

2	ガリレオ・ガリレイ	七九
---	-----------	----

(a)	ガリレイの伝統に対する自己擁護（ガリレイのエリア・デ	
-----	----------------------------	--

	イオダデイ宛書簡。二つの主要世界体系に関する対話	八二
	(b) ガリレイの近代自然科学の構想（二つの新しい科学に関する論議と数学的証明）	九九
3	アイザック・ニュートン（自然哲学の数学的原理）	一〇五
II	力学および唯物論的世界像の成立	一一六
1	ニュートン力学の方法の広い領域への応用	一一六
	クリスティアン・ホイゲンス（光に関する論文）	一二六
2	力学的唯物論的世界像の成立	一二三
	ダランベール（百科全書の序論）	一二四
	ドウ・ラ・メトリ（人間即機械）	一三一
	ウィルヘルム・オストヴァルト（自然哲学講義）	一三三
III	力学的唯物論的觀念の危機	一四九
1	ハインリッヒ・ヘルツ（「力学の原理」の序論）	一五一

2 ルイ・ドウ・ブローイ（光と物質）

「自然」について

著者について

文献

訳者あとがき

一五五

一七七

一八五

一九四

一九五

